

ベルマーク活用 わが社は協賛会社に聞く

宮坂醸造

ベルマーク運動協賛会社へのインタビューシリーズ「私の会社とベルマーク」。12回目は、長野県諏訪市にある宮坂醸造株式会社です。1972(昭和47)年にベルマーク運動に参加し、43年もの間、協賛されています。加入した当時のきっかけやベルマークに対する思いなどを、代表取締役社長の宮坂直孝さん、取締役管理本部長の青木隆さんにお話を伺いました。(聞き手・米内隆、海野哲生、写真・海野)



宮坂社長(左)と青木本部長(右)のインタビュー

子ども応援 先代の思い

「ベルマークの協賛会社という、ベルマーク付きの商品であることをPRして販売促進活動をする企業も多いなかで、御社は、そのことを前面に押し出していないんです。」

はい。そのことをお答えするのに、まず弊社がベルマーク運動を始めたきっかけについてお話しします。先代の社長(宮坂和宏氏)が小学校のPTA役員をされていたことがあり、学校を訪れた際に、学校設備が不足気味でさみしいことを気にしていたそうです。何かの折に、学校の教育設備をよくなるためのベルマーク運動について知り、わが社でも子どもたちのために何か役に立てないかと考えるようになったそうです。とはいえ、最初は子どもの教育とお酒を結びつけるのに苦心したようです。ですが、「お父さんが晩酌をして、そのお酒にいたベルマークを子どもが切り取り、集めた結果、それが子どもたちの応援、社会貢献になれば」という思いを強くしていきました。

東京市内の教育設備助成会(当時、現在のベルマーク教育助成財団)事務所に、先代の社長が何度か足を運び、弊社の商品にベルマークをつけることができないかとご相談させていただき、協賛会社に加わったという経緯があります。

「先代の社長から、ベルマークについてほかに聞いていることや伝えられたことなどはありますか。」

つねづね先代が申していたのは、教育はとて大

事なことであるということです。そして、小さな会社で大きなことはできないけれど、できる範囲でできることを続けていきたいと思いますということも申しておりました。

また、弊社のように、それほど知名度もなく、いなかの酒屋をベルマークの仲間に入れていただいたのだから、しっかりやるようにとも言われました。ベルマークの協賛会社だということあまりPRしないのは、会社としては販促促進というよりは「世のため、人のため」にやっていると気持ちがいいからだと思います。自分たちに対する戒め、という思いもあります。ですから、途中で協賛会社を抜けるというような話は全くありませんでした。

はがしやすくひと工夫

「御社がベルマークをとて大事にしてくださっているという思いは、代表的な商品「真澄」についているベルマークにも表れていると感じます。商品ラベルのベルマーク点数の部分だけ、裏面に糊(のり)をつけて、瓶からベルマーク点数をはがしやすく工夫されています。」

はい。通常、ラベルは瓶にしっかりと貼りつけるものですが、ベルマーク付きの商品ラベルについては、ラベルを貼る機械を特注して、ベルマークの部分だけ裏面に糊がつかないようにしています。

瓶からベルマークをはがしにくい、きれいにベルマークが取れないという声をお客様からたくさんいただいたことがきっかけです。

お客様が、瓶をしばらく水に浸けておいて、ラベルをはがしやすくしていただくのがいいかなと、うかがったので、そこでもお手間をかけてもらうならば、改善しなくてはと考え、現在に至ります。

「ベルマーク運動説明会に、今年は県内の松本会場にご参加いただきました。」

これまでなかなか説明会には参加する機会がなかったのですが、まず東京の新宿会場を見学させていただきました。想像していた以上の大勢の方がお見えで、びっくりしました。その後、松本市で開かれた説明会に参加させていただきました。今回は急だったこともあり、商品や、企業活動をまとめたパンフレットを配布させていただきました。

「首都圏で真澄の試飲販売会などもされていると聞きました。」



試飲会については、定番商品はもちろん、季節のお酒を知っていただきたくて、数はそんなに多くないですが不定期で開催させていただいております。秋のお酒としては、「山鹿純米吟醸ひやおろし」を、11月の下旬には新酒の「あらばしり」を発売する予定です。

「本社の目の前には御社のショップがあります。」

はい。真澄のアンテナショップの「蔵元ショップセラ真澄」です。2012年4月にリニューアルオープンしました。お酒のラインナップは、真澄のほぼ全商品です。ほかにも素敵な食卓をご提案するため、ぐい飲みやとっくりなどの酒器を取りそろえたコーナーもあります。売れ筋は、やはり季節のお酒で、いまでも、「山鹿純米吟醸ひやおろし」です。一年を通じて「純米吟醸辛口生一本」がよくお客様に選ばれています。

教育へ貢献 続けていく

「最後に、ベルマーク運動へのご意見などがあれば、お聞かせください。」

少し前までは、日本酒は、家庭のお父さんが毎晩晩酌するものでした。そこで弊社では、毎日飲んでいただけのスタンダードな商品に、これまでずっとベルマークをつけて続けています。最近では、焼酎やワイン、ウイスキーと、お酒の選択肢も増えて、日本酒の飲まれ方、選ばれ方も変化が表れてきて、売れ方や売れ筋も変わってきています。

ベルマーク運動の精神は崇高だと思えます。協賛会社に入れていただいているのは名誉なことです。真澄を買ってくださっているのは地元の方々がいちばん多いですし、先代社長の思いは伝わっているのではないのでしょうか。

ただ、弊社としては、もっとベルマークをつける商品の種類や点数の見直しは考えなければいけないかなと思います。若い人向けの高級酒にもつけた方が、いっしょかもしれません。せっかくベルマーク運動に協賛しているのですから、しっかり考えます。

ベルマーク運動を通じて、子どもたちの教育のために貢献できることを続けていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

98歳ベルマーク支え50年

山梨・上野原の幡野たいさん

「まだまだやめられません」と元気に語る幡野たいさん(左)。隣は近隣校長山梨県・上野原小学校

小学校の仕分け手伝う 「生きがいと責任」



「ベルマークにかかわることが、わたしの生きがいなんです。」そう語るのは山梨・上野原市の98歳、幡野(はたの)たいさんです。子どもも孫も卒業した近くの市立上野原小学校(児童495人)のベルマーク活動を支えて50年になります。大柄も乗り越え、いまはお自宅にベルマークの仕分けを手伝っています。その原動力は何なのでしょう。

味の素は83番、昔は32番があったね。43番は東芝、竹瀬湖池屋のポテトチップは種類が多いのよ。ロッテの苺のガムはマークが小さくて、高年齢のわたしには大変。毎年、脱退していく会社があつて残念ねえ……。すらすらと番号が出てきます。かつての協賛会社の名前もつぎつぎと挙げて懐かしみます。上野原小がベルマーク運動に参加したのは1965(昭和40)年7月26日ですが、手がけたのは幡野さんです。

ベルマークを集めれば学校の備品・教材が買え、見知らぬへき地校の支援にもなる。新聞で参加呼びかけの記事を読み、幡野さんは早々にPTAで話をもちかけました。「大変なのは」といふ声もあり、学校全体の参加にはならず、まずは次女が在籍していた4年生の学年委員会で取り組むことになりました。幡野さん(いまは70歳)は、PTAで話を持ちかけました。以来、半世紀、次女が卒業したあともつづいて、作業が幡野さんの役割になりました。この間、ベルマークも学校ぐるみの活動に変わりました。学校からは、あらゆるマークが返って入ったままの袋が届けられ、これを整理し、協賛会社などに整理し、マークに間違いはないか、脱退して使えない会社のマークは混じっていないか、などをチェックしながら、点検も数え、学校に返します。学校はそれを閉固して発送し、預金として貯めてきました。

卒業したあともつづいて、作業が幡野さんの役割になりました。この間、ベルマークも学校ぐるみの活動に変わりました。学校からは、あらゆるマークが返って入ったままの袋が届けられ、これを整理し、協賛会社などに整理し、マークに間違いはないか、脱退して使えない会社のマークは混じっていないか、などをチェックしながら、点検も数え、学校に返します。学校はそれを閉固して発送し、預金として貯めてきました。

「自分で始めたことですが、責任をもって続けなければ、と思ってやってきました。」

幡野さんは82歳のとき、「ベルマークは生きがい」と強く感じました。胃がんの手術を受け、「もう帰れない」と覚悟したものの無事に退院し、自宅に戻ったところ、ベルマーク委員の児童たちから寄せ書きが届いたのでした。

幡野さん(いまは70歳)は、PTAで話を持ちかけました。以来、半世紀、次女が卒業したあともつづいて、作業が幡野さんの役割になりました。この間、ベルマークも学校ぐるみの活動に変わりました。学校からは、あらゆるマークが返って入ったままの袋が届けられ、これを整理し、協賛会社などに整理し、マークに間違いはないか、脱退して使えない会社のマークは混じっていないか、などをチェックしながら、点検も数え、学校に返します。学校はそれを閉固して発送し、預金として貯めてきました。



元の生活 いつ



スナッグゴルフ楽しんだ 仙台で小学生の全国大会 岩手・福島の3校招待



ち岩手・福島両県の東日本大震災の被災地から3校が招待されました。ベルマーク財団も後援しました。スナッグは「SNAAG」(スナッグ)の略で、米国のプロゴルファーが考案しました。テニスボールよりも一回り小さいボールを2種類のクラブで打ち進め、カップ代わりのスナッグフラッグにボールをくっつけるものです。

開催式で「スナッグゴルフの道具はベルマークで購入できます」という紹介もありました。競技は、フェアウェードに設けた21×88ヤードの132人が参加し、うち10人が優勝しました。

「(ハッピー)の目撃」をめぐって参戦しました。なかにはプロを上回る好スコアでホールアウトする子もおり、プロはたじたじでした。今年度は福島県広田市の市立三ツ城小学校が優勝しました。

「(ハッピー)の目撃」をめぐって参戦しました。なかにはプロを上回る好スコアでホールアウトする子もおり、プロはたじたじでした。今年度は福島県広田市の市立三ツ城小学校が優勝しました。

「(ハッピー)の目撃」をめぐって参戦しました。なかにはプロを上回る好スコアでホールアウトする子もおり、プロはたじたじでした。今年度は福島県広田市の市立三ツ城小学校が優勝しました。